

大学における教育の倫理 —学生とのかかわりを省察する—

上月 翔太(愛媛大学 教育・学生支援機構教育企画室 特任助教)

講師略歴

専門は高等教育論、文芸学。日本学術振興会特別研究員、大阪大学大学院文学研究科文化表現論専攻助教などを経て2020年より現職。FDを始めとした諸活動の企画や実施に加え、大学のカリキュラム編成、大学における人文学、芸術教育について調査研究も行っている。大学のみならず学習塾や予備校、専門学校などの教育機関、企業で、多様な学習者を対象とした教育経験をもつ。大学SD講座2『大学教育と学生支援』において「多様な学生の支援」の章の執筆を担当。その他の著書には『学習支援Q&A』(分担執筆)、『カリキュラムの編成』(分担執筆)などがある。

プログラム概要

教育の場では倫理について考えるべき場面が多くあります。「すべきこと」と「すべきでないこと」があります。「よい」「わるい」が状況次第で変わることもあります。明文化されていないとしても「してはいけないこと」があります。そして、教育の場におけるさまざまな問題は、倫理をないがしろにしてしまったがゆえに生じていると考えることができるかもしれません。

本プログラムではまず倫理とは何か、なぜ倫理を考える必要があるのかについて基本的な枠組みを紹介します。次いで、大学という組織における倫理について倫理綱領などを素材に捉えていきます。そして、学生と接する場面で倫理的な問題がどのように生じるのかを一緒に考えます。

プログラムを通じて、とりわけ学生との関わり合いにおける倫理的な問題にはどのようなものがあるのかを皆さんと共有したいと思います。倫理という点から自身を振り返り、日常的な場面における倫理的な問題を発見できるようになることを目指します。

準備物・事前課題

特になし。

主な受講対象者

学生と日常的に接することの多い教職員(職歴や経験年数は不問)

到達目標

1. 教職員になぜ倫理が求められるのか説明できる。
2. 組織の文脈から倫理について考える観点をあげることができる。
3. 学生との関係における倫理的な問題を指摘することができる。

日時

8月26日(金)15時15分～17時15分